北川学生部の言い分

全学のみなさん！我々は、現在の態勢の食堂運営を危機的状況におとしこめた学生部の責任をここに明らかにすると同時に、その不当性をみなさんとともに確認していきたいと思う。

食堂潰しを画策する学生部

4月、寮食堂の炊つさんが長期療養に入られて以来、能戦寮食堂は3人の炊つさんで運営されている。そもそも、能野寮には、5人の炊つさんが働いていたのだから、炊つさんの労働強化は目に見えている。学生部は、これを放置しているばかりか、食堂運営が不可能になるのを手をこまねいて待っているのだ。

今回、炊つさんの労働負担を軽減するため、とりあえずの措置として、老朽化した設備の一部である蒸気釜が入釜になえられた。しかし、我々は、入釜のみによって食堂問題が解決したとは考えない。設備が新など学生部の当然の仕事なのだ。炊つの増員なしに本質的に食堂問題は解決されないのである。また我々は

71年、炊つさん一名が退職された際学生部は、後任を要求する正当な寮生の声を、権力導入ろ名でっちあげ逮捕という形で押し潰し、後任不補充をなしきった。そして今回、長期療養に入られた炊つさんの当座のなわりの人を要求する寮生の要求を、またも学生部は圧殺したのである。

食堂潰しの意図をあらわにした北川発言

6月23日、我々は今回の食堂問題について北川学生部長の見解を求め、大衆的追及行動をおこなった。その場で、北川学生部長は、後任炊つ不補充、長期休んでいる炊つさんの代理のんは雇わないこと等は学生部の方針だ。と言う一方で、学生部として良食堂を潰すという方針はない。という矛盾した発言を見せた。炊つの後任不補充が繰り返されれば、食堂を運営できなくなるのは自明のことである。寮生がそこを追及すると、彼は、後任炊つは学生が雇えば、あるいは業者食堂をいれれば……という返答をした。

これは、良食堂の厚生施設としての意義を全く無視した発言である。学生部は良設備の維持に責任をもつべきであり、そこには当然食堂の維持も含まれるべきなのだ。また、良生だって後任炊つ不補充という学生部の方針が変わらぬ限り、良食堂の運営は絶えず不安定な状況にさらされている。こうした食堂の状況は緊急に解決を要する問題である。と主張したところ、学生部長は「なお釜導入で食堂問題は解決した。」と居直った。たのだ。我々が再三主張してきたように「後任炊つ不補充」という学生部の方針の撤回なくして食堂問題の根本的な解決はあり得ない。我々は北川学生部長のこのような対応を許すことなく、食堂問題の解決に向けた正当な要求を学生部に対してつきつけていくつもりである。

一切の良自主管理への露骨な攻撃だ

当局の食堂潰しの策動は、我々の良自主管理に対する生活面からの切り崩しに他ならない。我々は良化に向けた当局の一切の攻撃と真向から対決し、これを粉砕しぬく決意である。すべての諸君が我々と共にたたかれんことを強く訴える。

闘争宣言